

「福祉ビジネス論」によるノートテイクの裾野の拡大

遠山正朗・小林充明・照木篤子

要旨：学部・学科の専攻内容や規模などに関わらず、安定的にノートテイクを学部・学科内に確保することができれば、聴覚障害者の進路選択の幅が広がる。こうした理念のもと、ビジネス系を専攻している学生を対象に、ビジネスの側面から広く福祉について講義をすることを通じ、学生の視野が広がる土壌作りをしたうえで、身近に顕在的なニーズのあるノートテイクとしての技術を習得できるよう演習を行っている。それが、新設・開講している「福祉ビジネス論」である。

埼玉工業大学での実践例

福祉ビジネス論カリキュラム前半：ビジネスに関する授業概要

<ビジネスの本質> 顧客志向経営「ニーズを満たしウォンツを満足させる」→消費者の必要とするものを具現化し顧客の欲求を満たす。

<製品の実例>

・聴覚障がい者用の製品紹介



パタイト
(屋内信号装置)



Shake Awake (携
帯型振動目覚時計)



Big Time

画像：長岡あすか氏(鳩ヶ谷市手話講習会講師)提供

・手話による「日立の樹」(歌)を紹介

<福祉ビジネス論と聴覚障がい>

大学等での講義を受講する聴覚障がい者が健聴者と同じように情報を得たいとするニーズをどのように満たし「情報保障」を行うのかという観点から健聴者が支援可能なサービスとしてのノートテイク技術を習得する。

その他の福祉製品・サービスの紹介

・ココロ

カッター・ナイフ…右利きの人でも左利きの人でも使いやすい

ハサミ(デビタ)…手にかかる負担を軽減

超強カマグネットフック(たまフック)…落ちにくいのに外しやすい

・福祉車両…講義内ではトヨタ車(ラウム)を紹介

・パナソニック

ななめドラム式洗濯機/IH クッキング・ヒーター(色で)暑いかどうかを表示

補聴器用電池…ちぎって取りやすく捨てるときの分別が簡単

福祉ビジネス論カリキュラム後半：ノートテイクに関する授業概要

厚生省通達による
「要約筆記奉仕員養成カリキュラム」

基礎課程 32時間
応用課程 20時間

福祉ビジネス論
ノートテイク講義 3.5時間
ノートテイク実技 8.5時間

回	テーマ	講義概要
第1講	ガイダンス、講義のねらい、出欠と評価	講義のねらい「人のつながり」「聴覚障害とは」「ノートテイク技術習得」「社会資源の不足を考える機会」
	聴覚障害の基礎知識	身体障害者の内訳(内閣府調査)、音・耳の仕組み、聴覚障害の基礎知識(原因、コミュニケーション手段、障害特性と心理)
	ノートテイクの基本	①情報保障の種類と特徴、聴覚障害学生の生活(映像)、大学ノートテイクとは ②書く体験(1分で何文字かける?)
第2講	大学ノートテイクの特徴	大学ノートテイクの特徴(単位)、専門性、継続性
	ノートテイクの基本	①必要な道具、②座り方、③書き方3つのポイント、④略字、略号
	効率的な書き方 I	①要約テクニック「漢語表現」②実習「ディクテーション(聞きながら書く)」
第3講	効率的な書き方 II	①要約テクニック「短縮表現」②日本語の特徴と要約
	実習①	「キーワードを聞き分ける訓練(M大学の会議)」
第4講	実習②	一人書き「自治体受講選抜試験問題」
	実習③	一人書き「自治体受講選抜試験問題」
第5講	実習④	交代書き実践練習 I
	実習⑤	交代書き実践練習 II
第6講	倫理とマナー	①モラルと社会的責任 ②ケースワーク
	実習⑥「模擬講義」	場面に応じた書き方…板書、朗読、プレゼン、ビデオ放映、ディスカッション等
第7講	実習⑦総合演習「講義保障」	総合演習 模擬講義と課題提出「40分間」
第8講	実習⑧総合演習「講義保障」	<学内ノートテイク応募用紙の配付・説明(学生課)> 講義保証と課題提出「40分間」

学生の声

略字がこんなに
沢山あるとは知らな
かったし習った
こともなかったの
でもっと知りたい

最初は難しくて
自分には無理だと
思ったが少しずつ
慣れてきた

実際のノートテイク
の人の話が
聞けたのはとても
よかった

耳の聞こえない人は
皆手話で
話すとと思っていた
全体の2割以下
とは意外だった

字が汚いし憂鬱だっ
たがこんな字でも必
要とする人がいて役
立つなら頑張りたい

要約技術の
習得は自分の勉強
にも役立つと知った

問い合わせ先

遠山正朗 masao.toyama@it-chiba.ac.jp
小林充明 kobayashi5000020281@gmail.com
照木篤子 terra@palette.plala.or.jp